

カービュー マーケットウォッチ (2010年3月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

国産乗用車が前年同月比40.5%、輸入乗用車も18.6%増!

10年2月順位	10年1月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	27,008
2	(2)	→	フィット	ホンダ	13,967
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	11,003
4	(5)	↑	パッソ	トヨタ	10,768
5	(4)	↓	カローラ	トヨタ	10,623
6	(6)	→	セレナ	日産	8,311
7	(8)	↑	フリード	ホンダ	8,192
8	(7)	↓	ステップワゴン	ホンダ	7,828
9	(11)	↑	ヴォクシー	トヨタ	6,851
10	(12)	↑	ノート	日産	6,688
11	(13)	↑	ウィッシュ	トヨタ	6,299
12	(9)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	6,252
13	(10)	↓	デミオ	マツダ	5,844
14	(17)	↑	マークX	トヨタ	5,539
15	(14)	↓	キューブ	日産	5,534
16	(15)	↓	エスティマ	トヨタ	4,964
17	(20)	↑	ノア	トヨタ	4,869
18	(16)	↓	ティーダ	日産	4,819
19	(21)	↑	ラクティス	トヨタ	4,685
20	(29)	↑	クラウン	トヨタ	4,047

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■国産乗用車が前年同月比40.5%、輸入乗用車も18.6%増！ 軽乗用車はマイナスだが、乗用車全体で7カ月連続のプラス

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した2月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車全体は39万5603台で、前年同月比121.9%と7カ月連続で前年を上回り、4カ月連続の2ケタのプラスと好調をキープ。特に3ナンバーの普通乗用車は13万1548台、前年同月比172.2%で8カ月連続、5ナンバーの小型乗用車も13万8841台、前年同月比117.8%で7カ月連続のプラスとなり、12万5214台で前年同月比3.9%減と15カ月連続で前年割れとなった軽乗用車分の落ち込みをカバーしてあまりある売れ行きとなった。ただ昨年2月は一昨年との同月比が75.6%と大きく下落した時期で、その08年2月と今年を比べると、同月比は92.2%。完全に回復基調ではあるものの、まだまだ拡大傾向には至っていない状況だ。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車は25万6894台で、前年同月比140.5%（日産デュアリス輸入分含む）と8カ月連続のプラス。メーカー合計ではスズキ、ダイハツ以外は前年を上回り、トヨタ（レクサス含む）、マツダ、三菱の前年同月比153.0%（357.3%）、150.5%、158.9%をはじめ、すべて2ケタ増となった。月間ランキングでは「トヨタ プリウス」、「ホンダ フィット」、「トヨタ ヴィッツ」のトップ3は前月から変動はなく、プリウス、フィットは9カ月連続の1、2位。4位には2月15日にモデルチェンジした「トヨタ パッソ」がワンランクアップし、「日産 ノート」が前月12位から10位にトップ10入り。トップ10はトヨタ5車、ホンダ3車、日産2車という勢力分布になっている。

軽自動車は乗用車部門は前年同月比96.1%とマイナスだが、貨物車を含めた全体では16万3341台で前年同月比100.6%となり、2カ月連続のプラス。登録車の貨物車（普通、小型の合計）も41カ月ぶりに前年を上回り、乗用車のみならず、貨物車も復調傾向になりつつある。

輸入車は乗用車全体で1万3497台、前年同月比118.6%と4カ月連続のプラス。特に海外メーカー製は1万2916台で、前年同月比20.7%増と好調を維持している。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が3882台で2カ月連続トップ。2位は2198台のメルセデス・ベンツ、3位は1910台のBMW（ミニを除く）、4位は1147台のオーディで順位に変動なし。トップ10中、5位のミニ以外は前年を上回る売れ行きとなった。

■ココも気になる！その1

RVRの投入で、三菱復活の第一歩となるか？

リコール隠しなど不祥事が相次ぎ、経営危機に見舞われた三菱。05年にはダイムラークライスラー(当時)との資本関係を解消し、三菱グループの全面支援により、経営再建を目指していた。しかし3/5ナンバー乗用車（登録車）市場では2年連続で前年割れ。軽自動車部門も3年連続で前年を下回る苦戦が続いていた。ただ08年度から取り組んでいる中期経営計画「ス

テップアップ 2010」により、販売会社の統廃合を含む経営効率化や徹底した経費低減策を実施。これが成果を上げ始め、昨年の 10～12 月期に 5 四半期ぶりに黒字転換し、今年 3 月期の国内営業利益が 2000 年以来の黒字となる見通しだ。

そんなトンネルを抜け出しつつある三菱の次の一手が、1 年 2 カ月ぶりのニューモデルとなったジャストサイズ SUV、「RVR」だ。発売が 2 月 17 日だったため、2 月の販売台数は 914 台と月間販売目標 1500 台には届かなかったが、事前受注は 3000 台超と好調。今年 1 月末からの先行予約キャンペーンで、アルミホイールなどのメーカーオプションやディーラー利用券 5 万円分サービスなどの特典が功を奏した形だ。

RVR は 4WD 車でも 200 万円を切るリーズナブルな価格設定や全車エコカー減税対象車としたことなど、ハードウェア以外でも特徴をアピール。さらに 5 月のヨーロッパを皮切りに、秋までには中国、北米などの主要海外市場にも投入し、三菱の新しい世界戦略車として、年間 8 万～10 万台の販売台数を狙っている。

また昨年、初の電気自動車（EV）として注目を集めた「i-MiEV（アイ・ミーブ）」も年間生産台数を 9000 台に引き上げることを発表。フランスの PSA プジョー・シトロエンとの EV 供給もまとめ、今年末にはヨーロッパ市場に投入される予定。名門ブランド、三菱の復活となるか、今後の動向に要注目だ。

■ココも気になる！その 2

メルセデス・ベンツがエコカー戦略で拡販を狙う

一昨年に勃発した世界的な景気後退で、大きな影響を受けた高級車市場。高級車のトップブランド、メルセデス・ベンツも例外ではなく、日本では昨年 2 万 8740 台（乗用車のみ）で前年比 77.7%にとどまり、3 年連続の前年割れとなった。世界市場で見ても、乗用車部門のメルセデス・ベンツ・カーズ（スマート含む）は 109 万 3900 台で、前年比 85.9%と落ち込んだ。ヨーロッパの自動車メーカーでは、小型車をメインとする VW（フォルクスワーゲン）は 1.1%増、PSA プジョー・シトロエンも 2.2%減にとどまるなど各国の支援策に救われる形となったが、高級車を主力とするメルセデス・ベンツは景気後退の波にもろに飲み込まれた形だ。

しかしメルセデス・ベンツは 2 月 10 日に、「C クラス」の 7 割を占める量販グレード、C200 をマイナーチェンジし、名称を C200CGI ブルーエフィシエンシーに変更。エンジンを新開発の 1.8 リッター直噴ターボとすることで、新車購入補助金制度対象車とした。さらに 2 月 24 日には「E クラスステーションワゴン」を 7 年ぶりにモデルチェンジ。同時にセダンとステーションワゴンに、クリーンディーゼル車の E350 ブルーテックアバンギャルドを設定した。このクリーンディーゼル車は尿素 SCR 方式の採用で、日本のポスト新長期規制とヨーロッパで 14 年導入予定のユーロ 6 という厳しい排気ガス規制をクリア。もちろん日本のエコカー減税 100.0%免税と新車購入補助金制度にも適合し、セダンで最大 67 万円、ステーションワゴンで最大 68 万円の優遇措置が受けられるようになった。

昨年投入したハイブリッド車に続き、クリーンディーゼル車で環境性能をアピールするメルセデス・ベンツ。輸入車市場の起爆剤となることを期待したい。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報担当 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
